

会 議 録 (概要)

会議の名称	令和元年度 第2回佐渡市行政改革推進委員会
開催日時	令和元年7月5日(金) 10:00~12:00
場所	佐渡市役所本庁舎大会議室
会議内容	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶</p> <p>3 議事</p> <p> 1) 次期集中改革プランの策定方針の報告について</p> <p> 2) 第3次集中改革プランの総括方法について</p> <p> 3) その他(次回委員会の開催日について)</p> <p>4 閉会</p>
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	<p>≪行政改革推進委員≫ (8名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長 西川 祐一 委員 ・職務代理 佐々木 宏史 委員 ・行革推進アドバイザー 南島 和久 委員 ・委員 川島敏秀委員、大橋幸喜委員、光村克己委員、齋藤美佐枝委員、齊藤孝夫委員 <p>・市役所 (4名)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局 企画課課長 猪股雄司 企画課課長補佐 中川裕二 企画課行革推進係長 椎 俊介 企画課行革推進係主事 菊池勇司
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	2人
備考	

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
猪股課長	1 開会
猪股課長	2 挨拶
猪股課長	3 議事
猪股課長	1) 次期集中改革プランの策定方針の報告について（資料 No.1-1、1-2 に沿って説明）。 ※ 4 月 22 日に開催の第 1 回委員会において策定方針（案）としてお示ししたとされた内容について、庁内で協議し方針として策定したことについて報告した。
猪股課長	(委員からの意見) ・なし
猪股課長	・もう 1 点、次期プランの関連で、現在策定を進めている第 2 次佐渡市将来ビジョンにおける行政改革の指針について報告する。
猪股課長	(資料 No.1-3 に沿って説明)
猪股課長	・現在、第 2 次将来ビジョンについて策定中であるが、その中で体系図について素案を作成中である。皆様ご存じのとおり、「将来ビジョン策定推進会議」には当委員会の西川会長にもメンバーとなっていていただいているところである。
猪股課長	・資料のとおり「行政改革実施プラン（次期プラン）」に基づく指針を将来ビジョンに入れ込みたいと考えている。大きな変更点はなく、現状の体系を踏襲しアップデートする形を考えている。
猪股課長	・内容が正式に決定されるのは、会長にもご出席いただいている策定推進会議においてであるが、本日は紹介という形で情報提供させていただいた。
猪股課長	(委員からの意見)
猪股課長	・行政改革の指針は現在のビジョンにおいては第 3 章という位置づけであるが、第 2 次将来ビジョンにおける位置づけは変わらないのか。これは当委員会で審議・協議する内容ではないが、お示しいただけるのであれば、ご紹介いただきたい。
猪股課長	・現在の将来ビジョンにおいては、行政改革の指針は「財政計画」や「持続可能な循環型社会の実現に向けた経済活性化戦略」と横並びの位置づけである。
猪股課長	・他の自治体や新潟県の計画を見ると、最初に計画を構成するのは「市民の暮らしの部分」についてであり、行政改革ではない。当市においても「市民の安心安全な暮らしに関する文言を最初に掲げるべき」というご意見があり、「財政計画や行政改革についてはその後段」という意見もある。資料編に位置付けるかどうかという点についてはまだ決定ではなく、今月 26 日に開催される第 2 回策定推進会議において協議したい。
猪股課長	・施策を打つためにはお金が必要である。そのためには行政改革についてはこれまでで

川島委員	<p>上にしっかりと進める必要があるということは委員の皆様には感じていただきながら、当委員会において発言等いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 2 次将来ビジョンの策定について、資料等いただけるものがあれば提供いただきたい。
中川課長補佐	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、庁内の課長・課長補佐レベルの部会において策定を進めている段階であり、これについては策定推進会議にも資料等お渡ししていない。7月26日の第2回策定推進会議以降ということであれば提供できるかと思う。
川島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ざっくり申し上げると、現在の将来ビジョンは10年前に策定した総合計画より退化しているように思えてならない。 ・26日以降に資料提供いただけるということで理解する。 ・本来であれば、26日をめがけて当委員会としての意見をまとめ、西川会長に策定推進会議で発言いただくというスタイルとしたいところである。意見することが後手後手になることが心配である。
中川課長補佐	<ul style="list-style-type: none"> ・26日以降は、策定推進会議については8月9日と毎月開催を考えている。ある程度方向性が決まるのはもう少し先であるが、新年度予算への反映も踏まえ、11月中にはある程度のもので作りたいとは考えている。
川島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・8月か9月の策定推進会議には当委員会としての意見を言う機会があると考えてよいか。
中川課長補佐	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。
椎行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の議事において決定するが、7月末または8月上旬に第3回委員会の開催を予定している。その際は、懇談会というような形において将来ビジョンについて話し合う機会を作ってもよいと考えている。 ・あくまで当委員会については、市長からの諮問事項に対して審議し答申することが目的である。「第2次将来ビジョンの策定」については、市長からの諮問事項にはないので、この部分については当委員会からは切り出して懇談会形式とする。
佐々木職務代理	<ul style="list-style-type: none"> ・将来ビジョンの市民アンケートの結果については、平成28年10月1～25日に実施したものが最新か。
中川課長補佐	<ul style="list-style-type: none"> ・本年3月に実施したものが最新である。今回の第2次将来ビジョンの策定のために実施させていただいた。市民3,000人、事業所1,300社程度を対象としている。その結果を踏まえ、26日に策定推進会議を開催する。
佐々木職務代理	<ul style="list-style-type: none"> ・公開されている情報が古いということか。
中川課長補佐	<ul style="list-style-type: none"> ・そのとおりである。まだ最新情報にアップデートしていない。
大橋委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料No.1-3において「行政改革実施プラン」という文言が初めて出てきたが、このことと、次期プランと、第2次将来ビジョンの関係性はどのようになるのか。
中川課長補佐	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほど申し上げた、現将来ビジョン第3章の行政改革の指針の体系を示している。新しい文言が誤解を招きお詫び申し上げる。
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・他にご意見等ないようであれば、次の議事へ移る。 ・議事2)の前に、委員の皆様へ申し上げる。皆様が当委員会の委員にご応募されたということについては、皆様は行政のプロフェッショナルではないが、個々のキャリアに

	<p>基づく一定のリテラシーをお持ちと思う。あくまで市民目線から意見提起するのが当委員会の目的であり、「私は行政のプロではないから意見できない」というような誤解をされることなく、自由闊達にご意見を述べていただきたいと思う。</p>
権行革推進係長	2) 第3次集中改革プランの総括方法について（資料 No.2 に沿って説明）。
齋藤美委員	<p>（委員からの意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別評価については、あくまで「1」～「5」なのか。判断しかねるものについては「わからない」「無回答」「2.5」といった評価をすることは可能か。
権行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> ・前例はない。 ・「1」～「5」という点数評価が難しいという方もいらっしゃると思う。その点については特記事項（評価理由等）欄において、点数以外について補足していただければと思う。
齋藤美委員	<ul style="list-style-type: none"> ・承知した。
南島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・2点ある。今の齋藤美委員のご質問に対応するためには、過去の評価点の平均点をお示しすれば、齋藤美委員にとっての基準ができるのではないかと思う。 ・もう1点。今の説明は毎年度の評価の仕方についての説明かと思うが、議事には「第3次集中改革プランの総括方法について」と書かれている。総括方法についての補足はないのか。
権行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> ・この後補足する。
南島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・承知した。
佐々木職務代理	<ul style="list-style-type: none"> ・別表3の評価項目1、小項目①、評価基準が「概ね良い」についてであるが、こちらは「評価3」に当たる部分であり、評価基準に対する考え方については「具体的な計画となっている」としており、その下の「評価2」については、評価基準に対する考え方については「概ね具体的な計画が立てられている」としている。ところが、これ以外の小項目については「評価3」に当たる部分の評価基準に対する考え方が「概ね」となっている。小項目①のみ、「評価2」に当たる部分の評価基準に対する考え方を「概ね」としたことには意味があるのか。 ・私としては「概ね」という言葉が曖昧であるため、この文言が評価基準に対する考え方に含まれる場合は「評価3」としたい気持ちである。「具体的」であれば「評価4」とすることが自然な流れかと思うが、なぜ小項目①のみ「概ね」の扱いが異なるのか。
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・佐々木職務代理の意見に補足する。 ・評価項目1、小項目①、評価基準の「やや不良」について、計画が立てられているにも関わらず、なぜ「不良」なのか。 ・評価項目2、小項目④、評価基準が「大変良い」について、「課長のリーダーシップ」が必ず必要なのか。 ・評価項目3、小項目⑥、評価基準が「やや不良」については、目標は達したが、計画より遅れたという理由で「不良」となっている。これは職員のやる気をそぐことにも繋がりがねないのではないか。

<p>推行革推進係長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少しこのあたりの精査が必要なのではないかと感じているが、いかがか。 ・2年前に、同様の取組みを前にこのマニュアルをお示したところ、同様の議論となった。 ・その際は、毎年度同様の評価によって横並びに点数を比較してきたという経緯があり、第3次期間中については評価方法を見直さないと結論付けたはずである。 ・今回は多くの課題を整理していただいたと理解しているので、当然見直しは必要と考えている。しかしながら、今年度実施する評価については、このマニュアルのとおり実施したい。
<p>西川会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当委員会においても、これまでこの評価方法を是としてきた。ただ、疑問は疑問として投げかけてきた。今回、委員が新たに改選されたということもあり、もう少しこの内容について噛み砕いて説明する必要があると感じたため、老婆心ながら疑問として改めて投げかけさせていただいた。
<p>川島委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これは質問ではなく意見であるが、別表2の特記事項（評価理由等）欄について、実はこの欄が最も大切であると考えている。 ・点数の根拠を委員各々が記載する訳であるが、その文書を読めば各々の委員がどのような観点に立って評価したのかが分かるようになっている。 ・委員の皆様については、是非、この特記事項（評価理由等）欄にコメントすることが委員の務めとご理解いただきたい。これは第1点目である。 ・第2点目は、個々の委員の評価点数を分析するとはっきりとした傾向が見て取れる。はっきり言うと、継続して委員を務めている人間ほど厳しく評価しており、新たな委員ほど評価点が「3」に集中している。 ・採点の際には特記事項（評価理由等）欄は重要である。ご自身の意見をしっかりと記載するようお願いしたい。
<p>光村委員 推行革推進係長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料No.2については（案）として示されているが、前回と異なっている点はどこか。 ・前回と異なる点については、黄色マーカーおよび朱書き下線部分である。
<p>光村委員 推行革推進係長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの中身については前回と変わりがないという理解でよいか。
<p>光村委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。
<p>推行革推進係長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この評価マニュアルは今回が5年目ということになるかと思うが、全く変わっていないということか。
<p>光村委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・変わっていない。
<p>推行革推進係長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・質問する。P.4～5であるが、各委員が個別に評価するというのでよいか。委員会として評価するのではなく、各委員個別の評価か。
<p>推行革推進係長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員個別の評価を委員会の評価として平均化する。各委員個別の特記事項についても、各々の特記事項について委員会の意見としてまとめた内容のものを各課への意見としている。
<p>光村委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員個別の評価というものは、P.1【図1】の評価スキームのどの部分か。
<p>推行革推進係長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(4)である。 ・課長プレゼンを聞いて、その場で評価シートを作成するという方法ではなく、評価シ

光村委員	<p>ートの作成までには一定時間を設けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(4) で各委員個別に評価したものを委員会として取りまとめるのは(5)ということではよろしいか。
権行革推進課課長	<ul style="list-style-type: none"> ・そのとおりである。
光村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、各委員個別の評価が「1」と「5」と分かれた場合、それを取りまとめる場が(5)ということか。
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に言うと、各委員個別に評価したものを事務局が整理し、各委員個別に資料として提供する。委員の皆様はその資料を事前に理解した上で委員会に臨み、個々の案件について意見交換している。場合によって、委員会において意見がまとまらない時は、会長・職務代理・事務局において別途協議し、委員会に提案することもある。 ・いずれにせよ、皆様の意見を交換しながら、当委員会の意見に収斂していくという方法を採用している。 ・であるから、各委員個別に評価や意見が分かれるのは大いに結構なことである。
光村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員個別に正反対の意見が出た場合どのように取りまとめるのか。 ・その背景を言わせていただく。西川会長はもう長く委員を務めている。しかしながら、このマニュアルの問題については5年間何も変わっていないとのことである。先ほど、マニュアルの内容について、佐々木職務代理、西川会長から質問があったが、新しい委員が質問するというのであれば理解できるが、長く務めている委員がなぜ今さらそのような質問をしているのかという思いである。
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・敢えて質問したということである。 ・新しい委員の皆様には意味が分かりかねると思われる部分について、質問という形で皆様に共通の理解をいただきたいと考えている。
佐々木職務代理	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局からの説明に、何度も議論されているということが省かれていたためである。そのため、初めての方にもおわかりいただけるよう質問させていただいた。
光村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・継続委員にお聞きしたい。 ・このマニュアルに基づく評価というものはどの程度正確に行われているとお考えか。
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・何をもって正確とするのか。
光村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私もそこがわからない。 ・このマニュアルを本日初めて見させていただいて、齋藤美委員からの質問にもあったが、採点について「わからない」という評価が発生しても然るべきなのではないかと考える。 ・このマニュアルの内容において、正確な評価が出来るか疑問である。
佐々木職務代理	<ul style="list-style-type: none"> ・正確とおっしゃるが、私は正確である必要性はないと考えている。 ・我々が当委員会の委員に選任されたのは、各分野の専門家として選任されており、行政改革推進委員会においては各委員が同じ点数を持たされている。 ・当委員会における平均点の考え方については、各委員個別の評価が「1」と「5」に分かれてよいと思う。根拠もなく「1」や「5」をつけるということが正確性に欠けるといことは理解するが、一応、そういう方がいるということも踏まえて平均点を出す。要は、「だから平均化する」ということである。正確性に関して、各自の個別の評価に

光村委員	<p>については一任されているので、それをここで論じる必要はないと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川島委員のご意見のとおり、継続委員については評価が厳しく、新しい委員については評価が「3」に集中しているということについては、恐らく、そのようにならざるを得ないのではないか。 ・正確という言葉が正しいかは別として、やはり適切に評価する必要がある。そういった場合に、齋藤美委員のおっしゃるとおり「わからない」という評価項目があればよいと考えた。
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・この協議に入る前に申し上げたが、行政の評価については、もっと行政のことを理解しなければ評価できないと考えている。 ・しかしながら、当委員会が委員の皆様にも求めているのは、市民目線において、自らのこれまでのキャリアの中で構築したノウハウやリテラシーにおいて評価いただくということである。それを意見交換しながら、最終的な結論に導いていくものである。 ・したがって、「わからない」というよりも「自らにはどのように映ったのか」という部分を大切にしてほしいと考える。
齋藤美委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今の委員の皆様のご意見を聞き、「わからない」「無回答」と評価することはあまりに無責任と感じた。自らの理解と努力において責任をもって評価にあたりたい。
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・力強い発言に感謝する。
川島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどから正確性という言葉が発せられているが、このような行政改革においては正確などということはありません。本来、同じ現象であっても、見る角度によって評価が異なるということと同じである。 ・佐渡市の行政をどのような視線で見ると。各々が持つバックグラウンドやキャリア、知識に基づいてこの佐渡市の行政を点数で評価するということであって、正確性ということではない。これが第1点である。 ・第2点目は、先ほどの繰り返しとなるが、特記事項（評価理由等）欄に、自らの評価の根拠を記載する訳である。これを集約し、意見の相違、視野の相違等も含めて意見交換し、最終的に当委員会として市長に答申する際の表現を決めていくのである。各委員個別それぞれが、自ら持つ基準において評価すればよいと私は思っている。
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・光村委員のご意見については、私自身も委員となった当初には感じたことである。現在の率直なご意見であることは理解するし、この場の各委員からの説明等についてご理解をお願いしたい。
川島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市長答申する時に、「点数と特記事項」とで答申するスタイルとなったのは、私が当委員会に参画するようになってからである。それ以前は「概ね良好」等の文言表現で回答をしていた。そうした従来の答申内容をホームページで見た時に、改善したいと思い私は当委員会の委員に立候補した。 ・当委員会内部についても、改善すべき点については指摘し、改善していく。そういうことこそが、当委員会の委員に与えられたミッションだと私は理解しているし、しっかりと特記事項（評価理由等）欄に記載すべきである。
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・要は意見が出ない会議は会議ではないということである。皆様で力を合わせて参りたいと思う。

<p>南島委員</p> <p>西川会長</p> <p>大橋委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私なりに違和感の正体を思うところがある。 ・点数に関して議論が集中しているが、重要なのは特記事項であって、これはかなり大きな意味を持つとご理解いただきたい。点数については色々問題もあるが、委員の皆様おっしゃるとおり、各委員個別の意見が違ってたととしても、それをぶつけながら調整をしていくということである。これは入試の面接において複数の人間が違う点数をつけて平均化させるという手法である。一般的な手法と理解してよいかと思う。 ・私が申し上げたいことは、P.5に2点ある。会長から提示された疑問点への補足が1点。それから、評価表に関する問題点の今後の課題について1点申し上げたい。 ・まず、会長が申し上げたことについての補足であるが、評価項目1、小項目①、「評価2」について、「概ね具体的な計画が立てられているにも関わらず、『やや不良』なのはなぜか」については具体性が不十分ということで補足が必要かと思う。評価項目2、小項目④、「評価5」に「課長のリーダーシップ」があるが、「評価5」については、チームプレーであり、チームとしてのベストプラクティスである。「評価4」については、一部でも良い取り組みが見られるというふうに識別しなければならない。そういった形での補足が必要ではないかと思う。評価項目3、小項目⑥、「評価2」について。「目標が達成されているにも関わらず、『やや不良』なのはなぜか」という点について疑問が生じるかと思うが、ここは目標の達成時期を問題としており、計画より遅れ気味なことが問題なのである。したがって、後半の「目標を達成できている」を括弧に入れてあまり重要視しないように見せることが大事である。文書にしてみると、述語にアクセントがあるように見えてしまう点が問題である。少し補足を入れながら読まなければならない部分があって、必ずしも完成度の高いマニュアルとは言えないが、これについては変更しないということであるので、「少し補足を入れてはどうか」という指摘である。 ・もう1点は、別表3の項目について、私がなぜ違和感を覚えたかということ、まちづくりや事業の取組み、住民生活にとって意味があるかという話と、内部の仕事の取り回し、人事評価の話がこの別表の中には混在しているからである。人事評価と事業やまちづくりの成果という部分については識別しなければならないが、合体してしまっている。それを書き分けて行かなければならないということは、今後の課題になるかと思う。次のステップへの宿題としてカウントしていただきたい。内部の仕事ぶりについて、組織として評価したいという気持ちは非常に理解できる。しかしながら、そのことが無自覚に混在していることについては、切り分けた方がよいかと思う。担当部局の方を呼んで話を聞くと「その評価をしたい」あるいは「その評価をしてほしい」というようなことが滲み出ているような形となっているので、論理的に識別した方がよいと思っている。 ・事務局が説明すべき部分を、南島委員が簡潔に説明してくれたと理解している。 ・他にご意見等あるか。 ・川島委員のご意見について、点数評価によって答申していくというスタイルが変わったのであれば、別表3の評価基準の各項目は不要なのではないか。点数評価が変わったと言いながら、この評価基準が残っているために委員の皆様が迷うのであって、別
-------------------------------------	--

西川会長	表3からこの評価基準を消去すればよいと思うがいかがか。
大橋委員	・評価の仕方として、文言で記載すると「概ね良い」という評価を「3」に置き換えただけであって、内容として変わりはない。大橋委員のようなご意見はあるかと思うが、文言としての基準は残しておいた方がよいのではないか。
佐々木職務代理	・評価基準と評価基準に対する考え方に齟齬があるため、評価基準を消去すれば委員の皆様への迷いも払拭されるのではないか。
西川会長	・正直言って、私が当委員会の委員となった時、この評価基準は一定の基準として判断材料となった。全員が同じ理解をしている訳ではないので、この評価基準については指標として見ていただくということではいかがか。
椎行革推進係長	・事務局として意見はあるか。 ・今回は変更云々については考えていないが、大橋委員のご意見については、事務局サイドとしては非常に理論整然としており理解しやすいと感じた。私個人としては納得するご意見である。 ・課題の1つと整理したい。
西川会長	・南島委員の意見等も踏まえ、別表3の内容については見直す必要があると思う。今回は、平成30年度の実績について評価するが、次期プランの評価方法については、見直しは必要と思う。
齋藤美委員	・評価基準と評価基準に対する考え方の齟齬については、これを一般市民にアンケートするような話ではないので、少なくとも今ここにいる委員については内容を理解できているし、本日欠席の委員にだけその旨伝えればよい話と思う。 ・もう1点。先ほど南島委員からご意見のあった、過去の評価点の平均点を参考にする点については、個人的にそちらへ流されてしまう気がしているため、自分の主観的な判断を大切にしたいと思う。参考としたいところではあるが、あえて今回は不要であると意見申し上げたい。
椎行革推進係長	・過去の点数等についてはすべてホームページに掲載されている。委員各々のご判断によりご参照等いただければと思う。先ほどの南島委員のご意見について、事務局では過去の評価点の平均点を横並びにした資料を用意しようと考えたが、今回は用意しないこととする。必要な情報はホームページより引き出していきたい。
西川会長	・議事を先へ進めたい。先ほど南島委員のご意見に対し、事務局より第3次集中改革プランの総括方法について補足する旨説明があった。説明を求める。
椎行革推進係長	・資料No.2のP.1【図1】をご覧ください。 ・今年度は、第3次集中改革プランについて「平成30年度実績の評価」および「5年間の総括」が必要であり、また、これらに基づいた「次期プランの策定」と、3つの取組項目を抱えている。 ・第1回の委員会後、5月22日に会長および職務代理ならびに事務局の3者で総括方法について協議し、その後課内においても協議した結果について（案）という形でお示しさせていただきたい。 ・現在、事業担当課において、平成30年度実績および令和元年度実績見込み、5年間の

	<p>自己採点、令和2年度以降の取組みの意向等についてまとめているところである。まず、平成30年度実績の評価については、重点6項目について、①例年どおり8月に担当課長によるプレゼンテーションを行い、これに基づいて評価・採点する。採点については、平成30年度の実績に基づいて点数化することとなる。②その後、2月時点において平成31（令和元）年度末実績見込みを各課から集約し、その見込みに基づいて評価する。①を中間総括として一旦とりまとめ、②において①に加筆・修正することで5年間の総括としたいと考えている。もう1点。重点項目以外の多数の項目について。こちらについては、担当課からの報告を踏まえた「次期プラン（原案）」を当委員会へお示しすることとし、最終的に次期プランの策定を持って総括および答申に換えるという形を考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以上、事務局（案）である。いかがか。 <p>（委員からの意見）</p>
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・担当課より、自己評価も含めた進捗管理シートが7月中にお示しされるということか。
権行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> ・そのとおりである。
西川会長	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の皆様においては、進捗管理シートを事前に読み込んでいただき、質問なりを事務局へ投げかけ、担当課からの回答を得ながら、8月の課長プレゼンに臨むということである。9月以降は、各委員個別に作成の評価シートによって、当委員会の意見として収斂していくということである。
齋藤美委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に進捗管理シートをいただけるということで、ある程度の進捗については把握できているが、プレゼン当日は、担当課長がどの程度の持ち時間で説明されるのかということと、質疑応答を受け付けていただけるかということをお聞きしたい。
権行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> ・各課の業務ボリュームによって時間は異なるが、平均的には課長プレゼンに10～15分程度、その後、質疑応答に20～30分程度は用意している。概ね1時間で1サイクル程度とイメージしていただけたらと思う。
川島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・課長のプレゼン時間は10分程度でよいと思うが、プレゼンについてのガイドラインを用意していただきたい。当委員会の質問に的外れな回答をする課が見受けられた。本日はガイドライン（案）の一例を作成してきたので、後ほど事務局にお渡しする。
光村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・川島委員の意見に驚いている。プレゼン用のマニュアルは当然、用意されているのではないのか。
権行革推進係長	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン用のマニュアルというものは用意していない。 ・プレゼンの主旨については担当課長に説明しており、「このような質問について、このような視点から、この制限時間において説明をお願いしたい」ということは事前にお伝えしている。
光村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・川島委員にお聞きしたい。今、事務局より説明があったが、それに加えてさらに詳細なガイドラインを提示するということか。
川島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そうではない。当委員会が評価するポイントというものがある。事務局から担当課長へはプレゼンの主旨や内容について説明していると思うが、現実には、課長補佐クラスがプレゼンし、テーマから外れたことを説明するということが散見された。

西川会長	・川島委員が作成したガイドラインに基づきプレゼンを実施することは違和感がある。それは事務局へ一任すべきと考える。
川島委員	・そのとおりであるが、徹底していただきたいと思つての発言である。
西川会長	・担当課長がテーマに即したプレゼンを行うか否かは、事務局の問題である。事務局はそのためのガイドラインを用意すべきということである。
佐々木職務代理	・川島委員のご意見については、確かに過去における的外れのプレゼンはあったかと思う。
西川会長	・評価基準が分かるように説明していただければよい。
西川会長	・的外れなプレゼンとならないよう、当委員会としては事務局へ強く意見する。事務局より担当課長へしっかりとお伝えいただきたい。
権行革推進係長	・今の各委員のご意見の関連であるが、「課長プレゼン」と言いながら、実際にプレゼンするのが課長以外であるケースがあるが、このあたりはいかがお考えか。
南島委員	・それは役所の秩序の問題であり、当委員会へ諮ることではない。事務局において調整すべきことである。
権行革推進係長	・話を本題へ戻させていただく。総括方法について、事務局からは「次期プランの策定と少し重ね合わせながら」という説明をいただいた。担当課の作業方法については説明があったが、当委員会としてはどのように関わるのか。第3次集中改革プランの期間中の取組みに対し、点数をつけるのか、コメントを出すのか。教えていただきたい。
権行革推進係長	・重点6項目以外に絞って説明する。
権行革推進係長	・個々の項目について点数をつけるということは考えていない。担当課より自己採点と、次期プランへの取組みの継承の有無について取りまとめを行っている。当然、この内容についても当委員会にお諮りする。また、本日の冒頭において行政改革の指針の体系図の素案をお示しさせていただいた。基本的には、策定方針と体系図によって出来上がってくるものが次期プランである。担当課からの意見の取りまとめと、策定方針・体系図を照らし合わせる時に、当委員会よりご意見・ご提言をいただきたいと考えており、それらが次期プランに反映される内容に繋がると私は考えている。非常に地道な作業になるかと思うが、項目毎に「これは次期プランに継承すべきか否か」という判定をしていきたい。
南島委員	・1点お願いがある。「PDCA サイクル」と言われる昨今であるから、検証をして次の策定に対して反映させていくという仕切りをこの会議を使って整理していくよう心がけていただければと思う。
権行革推進係長	・承知した。
西川会長	・資料 No.1-1 にも記載があるが、次期プランについて、現在の「集中改革プラン」からの名称変更については、中身を精査すると大きく変わってくる可能性もあるかと思う。本日は時間もないが、事務局はこの課題については個別に時間を設けることは考えているのか。
権行革推進係長	・どこかのタイミングで時間は割きたいと考えている。
権行革推進係長	・基本的には、現将来ビジョンをアップデートするという第2次将来ビジョンにおける行政改革の指針の実施計画である。第2次将来ビジョンにおける位置づけはまだ決ま

<p>西川会長</p>	<p>っていないが、行政改革の指針の中身・体系については現在と変わりはない。従って「行政改革の実施計画」という点についても変更はない。あとは、ネーミングをどうするかというだけの話である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根底にあるのは、財源は限られているということであり、これまでのようにハコモノの整備にお金をつぎ込んでばかりはいられないということである。インフラ、漁港等についても、何でもかんでも整備できるということではない。そういった背景も含めて議論できればよいと思う。
<p>権行革推進係長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・根底については、会長のおっしゃるとおりである。 ・現将来ビジョンの第3章については、委員の皆様も当然お目通しいただいていることと思うが、非常に難解である。掲げなければならない大切なことがたくさんあることは理解するが、何でもかんでも書いている。非常に分かりづらい内容であると個人的には思っている。 ・今回、資料 No.1-3 においてお示した体系図については、他の自治体の体系図を模したものであるが、非常に分かり易い。何をするのかということが一目で理解できると感じる。書いてあることは、佐渡市と同じである。ただし、整理の仕方が違うということであると理解している。 ・あとは、第2次将来ビジョンにおける行政改革の指針において、何をいちばんすべきかということが次期プランのネーミングに関わってくると思う。あくまで財政計画の堅守のためのプランというのであれば「財政計画持続プラン」といったネーミングとるかと思う。また、このプランを用いて市民の皆様へ行政改革へのご理解を促す、訴えかけていく、ということに主眼を置くのであれば、それはまたそれなりのネーミングになるかと思う。 ・ここは別途時間を設けたい。
<p>西川会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を設けるよう要望する。 ・他にご意見等なければ、次へ進む。
<p>権行革推進係長</p>	<p>3) その他（次回委員会の開催日について）</p> <p>※協議の結果、次回委員会は7月31日（水）10時～12時に開催することで決定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回委員会については、市長からの諮問を予定している。また、それ以外の時間については懇談会として、第2次将来ビジョンにおける行政改革の指針の内容について意見交換する。